

## (2) 指導内容1について

**司会** 鈴木先生から、今日の授業の意図と、反省などをとりまとめてお話し頂きました。それでは、過程にそって話し合いを進めたいと思いますが、観点の欄、そこには、主題との関連が①とか②とかで表されていますし、本時の具体的な目標が①、②などで表されているわけですが、そのへんに十分留意していただきまして、ご意見などお聞かせ願います。

では、指導内容の1、前時の計算の方法について話し合い、本時の内容をつかませる、というところで、お気づきの点がありましたらお願いします。

(省 略)

**H** 観点のNo2のところですが、鈴木先生苦労なさって、かけ算の筆算のところに持って行かれたんですけれども、あそこで、わたくし、こんなことを考えていたんです。先生が前時にすごくいいに良く指導されていたので、子供たちは、(参考図1)の計算の仕方がよくわかって、身につけていて、長くて困ったという感じは持っていません。あまりきのうの授業が良かったので、もっと早く、正しく計算できる方法についての必要感がでてこなかったのではないかと思います。わたしが観察していた54番の子供は、「きのう間違っただけで、」というときには手を上げたんですけれども、「長くて困った、いっぱい計算しなくてはならなかったね」と、先生がいわれたとき、ちっとも困った顔をしていなかった。この子さえもそうだったのだから、きのうは本当に良く理解していたんだなあと思いました。それで、ひとつ、こんなことはどうかと思ったんですが……、それは、「用意、ドン」で、子供たちはきのうのやり方で計算して、先生は筆算でやってみるとか、そんなふうにして先生は早く正しくできた、だから、そこから筆算を考えさせてはどうだったかなと考えたわけです。

**司会** そうしますと、「用意、ドン」でやったとしますと、先生は筆算でやってしまうわけですね。

**H** 筆算は見せないで書いて、答えだけみせるよ

うにしたら。

**司会** 答えだけ教えるわけ。

**H** 「先生だから早いんだ」なんて確かめてくるかも知れませんが、「先生は違う方法でやったんだ」なんていうと、それはどんな計算方法なんだろうと興味を示すのではないかと思います。

**司会** というようなご意見なんですけれども、ほかの先生方はいかがでしょうか。

**M** わたしもH先生がおっしゃった点について、そこから筆算を持ちだしたらどうかな、と思っていました。

**Y** わたしは、たし算、ひき算の筆算を思いおこさせて、そこからかけ算の筆算を思い浮かせようというやり方は、さすがに先生お上手だなあ、と思って拝見していました。既習事項を手がかりにして、子供たちに考えさせるやり方で、あれはあれでよかったと思います。ただ、わたしは、63番の子供を観察していたんですが、初めは大変元気よく答えていてすばらしいな、と思っていたんですが、いまH先生のいわれた点、その辺でちょっと戸惑ってはいたようでした。

**司会** いままでの先生方のご意見をまとめてみますと、あそこは、H先生のようなやり方もあったんではなかったかな、ということになります。鈴木先生は話し合いで、必要性をひっぱり出されていったわけなんです、H先生のやり方では、いっぺんにこうぱつとわかる感じもしますね。そういう場合の数字の取り上げ方ですね。鈴木先生は、前時に使われた $32 \times 3$ を持ってこられたわけですが、H先生だったらどんな数字を持ってこられますか。

**H**  $32 \times 3$ は答えがわかっているので、これはまずいですね。その場合には、違う数字を持ってこなくてはなりませんね。

**鈴木** かけ算の筆算は初めての計算だったのでね。勉強というのは、いつも前に習ったことを使うとできるんだ、ということをつつもくり返して言っているわけです。だから、何か困ったら、前に習ったことで使えそうなことがないかどうか、使えそうな手掛かりを集めようと、いつも言っている